

はじめに

野鳥の楽園、江戸川区

江戸川区には四季折々、世界各地から数多くの野鳥が飛来します。その数 260 種。過去に確認された国内の鳥類 633 種のうち、約 4 割が江戸川区で確認されています。私たちの住むまちは、大都市の中にある野鳥の楽園なのです。

ではなぜ、江戸川区に多くの野鳥が集まるのでしょうか。

区内には、葛西の沖合 2km 以上に広がる干潟や、総面積約 80ha の葛西臨海公園など、多くの野鳥が訪れるサンクチュアリがあります。また、鳥たちが翼を休める河川敷や親水公園、街路樹が区内のいたるところに存在しています。

区民と行政が長い年月をかけてつくりあげた「水と緑の豊かな街づくり」により、江戸川区は鳥たちの憩いの場となったのです。そして今、多くの区民ボランティアが野鳥の保護活動に取り組んでいます。

本展では、野鳥の種類や飛来するルート、子育ての姿、鳥たちを保護する区民ボランティアの活動やバードウォッチングの方法など、鳥たちの魅力を紹介します。

江戸川区の豊かな自然に集まる多くの野鳥。力強く羽ばたく姿や、一生懸命子育てをする姿など、あらためて私たちの身近にいる「野鳥」を知っていただき、皆さまの鳥たちへの親しみや愛情がより深いものとなるよう、ここに本展示を開催いたします。



江戸川区は水辺や緑あふれる野鳥の楽園

江戸川区の 野鳥観察ポイント



旧中川

通年、コサギやダイサギ、カワウやカルガモなどの水鳥が観察できます。冬にはオナガガモなど数種類のカモ類とユリカモメなどが見られるようになります。カワセミも時々、観察することができます。

荒川右岸：船堀橋下流

コサギ、ダイサギ、アオサギ等のサギ類とカルガモ、カワウなどの水鳥が通年観察されます。冬にはホシハジロやキンクロハジロ、ヒドリガモなど多くのカモ類でにぎわいます。春と秋にはシギ類も見られます。

荒川中堤：葛西橋周辺

コサギ、ダイサギ、アオサギ等のサギ類とカルガモ、カワウなどの水鳥が通年観察されます。冬にはコガモがよく見られます。春と秋にはキアシシギやチュウシャクシギなどのシギ類も見られます。

清新町緑道：臨海町緑道

シジュウカラ、オナガ、ヒヨドリ、カワラヒワなどが通年観察できます。冬にはコゲラやウグイス、ツグミ、シロハラ、モズなど多くの冬鳥を観察することができます。バタフライガーデンがあります。

葛西臨海公園：葛西海浜公園

水辺の鳥、山野の鳥、共にたくさん観察できます。開園以来、260種ほどが観察され、都内随一の野鳥の観察地となっています。一年じゅう楽しめますが、特に冬の数万羽のスズガモの群れは圧巻です。

江戸川：小岩菖蒲園周辺

スズメ、カワラヒワ、ムクドリ、カルガモ、カワウは通年観察されます。夏には残された菖蒲原にオオヨシキリが飛来し、ツバメもよく見られます。冬にはチョウゲンボウなどの猛禽類が見られます。

小松川境川親水公園

シジュウカラ、オナガ、ヒヨドリなどが一年中見られます。冬にはコゲラやメジロ、ウグイスがよく観察され、春と秋の渡りの季節にはキビタキなどが見られることがあります。中央森林公園周辺が特にポイントです。

江戸川：碓崎水門付近

カルガモやカワウの水鳥やムクドリ、カワラヒワなどが見られます。冬にはキンクロハジロなど数種のカモ類やユリカモメなどのカモメ類とオオバンなどの水鳥が観察できます。

一之江境川親水公園

シジュウカラ、カワラヒワ、ヒヨドリなどは通年見られ、中流ではカルガモがよく観察されます。冬にはコゲラやメジロ、ウグイスがよく見られます。自然水を流しているので、魚やカニを観察できます。

古川親水公園

シジュウカラ、オナガ、ヒヨドリなどが一年中見られます。冬にはコゲラやウグイスなどがよく観察されます。沿線には寺社仏閣も多く、ケヤキなど大木の風景を楽しむことができます。

新左近川親水公園

通年、カワウやカルガモを見ることができます。夏にはコアシサシやウミネコも飛来し、カルガモの親子連れを観察することもできます。冬にはキンクロハジロやオナガガモなどのカモ類とユリカモメがたくさん飛来します。



本物の猛禽類と ふれあってみよう!

江戸川区自然動物園が、八丈島で翼を負傷して保護されたハヤブサを飼育し始めたのは2001年のこと。その後も猛禽類の飼育数は徐々に増えており、現在、ハヤブサ6羽、ノスリ1羽、トビ1羽を飼育しています。

残念ながら、1羽目のハヤブサは飛べなくなっていました。それでも、「子どもたちに猛禽類が飛んでいる姿を見せてあげたい」という飼育員の思いから、7名の鷹匠が結成した『自然教育フライング・ホーク・チーム』による『ハヤブサやタカのフライトショー』が2006年に始まりました。

フライトショーは毎年12月中旬に自然動物園に隣接する都立宇喜田公園スポーツ広場で開催。鷹狩訓練の実演、猛禽類や自然についてのクイズ、鷹匠体験、記念撮影など、盛りだくさんの内容で、毎回1000人近い参加者が集まる人気イベントとなっています。



鷹匠と鳥の合った演技を披露



一番人気の鷹匠体験コーナー



間近で見る猛禽類の迫力にビックリ!

区内の公園や土手でカワセミの 巣づくりをお手伝い!

ブルーとオレンジの羽毛の色合いが美しいカワセミ。近年、河川は岸辺のコンクリート化が進み、巣を作るのに適した場所が減少しています。そこで2005年、江戸川区では、公園や鳥類園にカワセミの営巣地を設置しました。2007年には繁殖に成功し、3羽のひなの巣立ちを確認しています。また、旧中川の土手の一面にはカワセミ営巣砦を用意する試みも行われました。こうした努力が実り、区内の川や葛西臨海公園ではカワセミの姿を見ることができるようになりました。



ダミー

樹皮に50～100cm
程度の穴を掘って
巣を作ります。

鳥類園(葛西臨
海公園)内に造
られたカワセミ
の営巣地。



ダミー

成長して巣立っ
たヒナたち
／2007年



ダミー

水路や池畔の
雑草を刈り取り、
きれいにします。

営巣地の手入れと周辺環
境の整備作業。毎年、ボラ
ンティアの人たちにより
行われています。

巣作りを行うカワセミ
のつがい(鳥類園の営
巣地)／2008年



ダミー



東京23区内で公園の総面積 No.1 の江戸川区。

鳥たちも暮らしやすいのかな？



「ゆたかな心、地にみどり」を合言葉に、江戸川区は1970年から緑化運動をスタートさせました。現在、区内の公園は総面積約768万m²。東京23区内でトップを誇ります(2015年4月1日現在)。

公園の木々は、小鳥にとって天敵から隠れて休むのに最適です。私たち人間にとって気持ちのいい街は、鳥たちにとっても過ごしやすい街のようです。



小松川境川親水公園



一之江境川親水公園



鳥博士のミニガイド③



江戸川区の街には、公園の他にも 野鳥にとって快適な場所がいろいろあります



環境カウンセラー
重杉 浩さん

江戸川区には、多くの親水公園とともに、水や緑を楽しみながら歩ける「親水緑道」があります。ここには鳥たちが隠れて休める常緑樹もあるため、冬には渡り鳥も訪れます。他にも、たとえば、イネ科の植物が育ちやすい河川敷は、イネ科の種子を好むスズメ目の鳥の楽園です。鳥たちにとっても飲み水の確保も重要なので、その点でも川や水路が多い江戸川区は快適な場所。

こうしたさまざまな理由が重なって、江戸川区にはたくさんの野鳥が集まってくるのです。

ペーパークラフト展示説明

ウグイス

特徴／「ホーホケキョ」という美しい鳴き声で有名。
出会う場所／親水公園・親水緑道・公園
出会う時期／10月～4月
食べ物／昆虫など



ツバメ

特徴／日本が暖かい春になるとやってくる渡り鳥。
出会う場所／親水公園・親水緑道・公園
出会う時期／3月～10月
食べ物／昆虫など



スズメ

特徴／昔から「近きついばむ」といわれる身近な鳥。
出会う場所／親水公園・親水緑道・公園
出会う時期／通年
食べ物／種子・昆虫など



ジョウビタキ

特徴／腹部が赤褐色なのがオス、灰褐色なのがメス。
出会う場所／親水公園・親水緑道・公園
出会う時期／10月～4月
食べ物／木の葉・昆虫など



キビタキ

特徴／上面の羽毛が黒く、黄色い眼斑があるのがオス。
出会う場所／親水公園・親水緑道・公園
出会う時期／4月～5月・9月～10月
食べ物／昆虫など



メジロ

特徴／花の蜜が好物で、梅などの受粉を助けています。
出会う場所／親水公園・親水緑道・公園
出会う時期／9月～7月（夏も少数）
食べ物／花の蜜・木の葉・昆虫など



ハクセキレイ

特徴／尾羽を上下に振って歩く姿が特徴的。
出会う場所／親水公園・親水緑道・公園
出会う時期／通年
食べ物／昆虫など



シジュウカラ

特徴／胸から腹に黒い模様があり、太い方がオス。
出会う場所／親水公園・親水緑道・公園
出会う時期／通年
食べ物／昆虫など



カワセミ

特徴／羽の色の美しさから「飛ぶ宝石」とも呼ばれています。
出会う場所／江戸川・荒川・新中川・葛西臨海公園（鳥獣園）
出会う時期／通年
食べ物／小魚・昆虫など



ルリビタキ

特徴／上面の羽毛が青いのがオス、緑褐色なのがメス。
出会う場所／葛西臨海公園（鳥獣園）
出会う時期／11月～2月
食べ物／昆虫など



ウソ

特徴／口笛を意味する古語「うそ」が名前の由来と言われています。
出会う場所／葛西臨海公園
出会う時期／冬
食べ物／昆虫・木の葉など



オオルリ

特徴／「ヒリーリー」という美しい鳴き声で有名。
出会う場所／葛西臨海公園
出会う時期／4月～5月・9月～10月
食べ物／昆虫など



サンコウチョウ

特徴／長い尾を持つのがオス。
出会う場所／葛西臨海公園
出会う時期／春・秋
食べ物／昆虫など



キクイタダキ

特徴／日本国内で見られる鳥の中では最小。
出会う場所／葛西臨海公園
出会う時期／冬
食べ物／昆虫など



エナガ

特徴／キクイタダキの次に小さく、長い尾が特徴。
出会う場所／葛西臨海公園
出会う時期／冬
食べ物／昆虫・種子・木の葉など



ヤマガラ

特徴／学習能力が高く、昔は芸をする鳥としても有名でした。
出会う場所／葛西臨海公園
出会う時期／冬
食べ物／昆虫・木の葉など



ベニマシコ

特徴／羽毛が赤いのがオス、褐色なのがメス。
出会う場所／葛西臨海公園
出会う時期／冬
食べ物／昆虫・種子など



キセキレイ

特徴／オスは夏に喉が黒くなります。
出会う場所／葛西臨海公園
出会う時期／9月～11月
食べ物／昆虫など



コルリ

特徴／上面の羽毛が暗青色のがオス、緑褐色なのがメス。
出会う場所／葛西臨海公園
出会う時期／1998年10月に観察例
食べ物／昆虫など



コマドリ

特徴／「ヒンカラ」という美しい鳴き声で有名。
出会う場所／葛西臨海公園
出会う時期／春と秋
食べ物／昆虫など



カワラヒワ

特徴／風切羽の黄色い模様が、飛行時に映えます。
出会う場所／親水公園・親水緑道・公園
出会う時期／通年
食べ物／種子など





日本野鳥の会東京 幹事
葛西東渚・鳥類園友の会会長
飯田陳也さん

スズガモの大群は「葛西の冬の風物詩」

葛西の海には、スズガモが毎年コンスタントに2万羽以上やってきます。鈴のような羽音をたてながら大群が空を舞う様子はまさに圧巻。エサは主にアサリなどの貝類で、秋から春まで鳥たちの食欲を満たせるだけの豊かな資源がここにあることがわかります。東なぎさは人の立ち入りを禁止して自然の生態系を保護しているので、川や海から流れ着いたゴミが溜まってしまいます。そこで年に2回、江戸川区のボランティア「葛西東渚・鳥類園友の会」などが参加して、クリーン作戦を展開、海辺の汚染を防いでいます。



野鳥たちをとりこにする多様な自然環境

葛西の海辺には干潟も、林も、草地もあり、もちろん海があります。さらに淡水と汽水（海水と淡水が混じった水）の池もあって多様な環境が形成されていることが、さまざまな野鳥たちの共存につながっています。公園完成から25年経って樹木が成長し、樹林性の鳥、例えばトラツグミやルリビタキ、コゲラ・アカゲラなどキツツキの仲間が増えてきたことも日々実感します。冬のおすすめは上の池。カモなどの水鳥とそれを狙う猛禽類を見られるチャンスです。



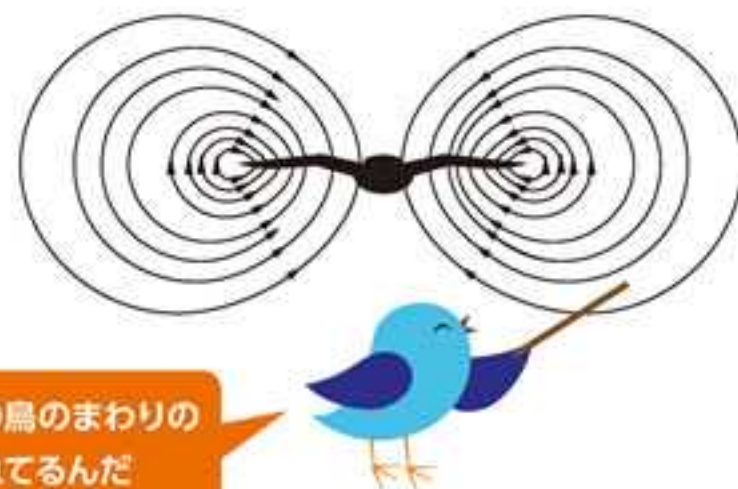
葛西臨海公園鳥類園スタッフ

NPO法人生態教育センター

中村忠昌さん

なぜV字型編隊？

長距離を飛ぶ大型の鳥たちは、群れで飛ぶ時にV字型に編隊を組みます。編隊飛行で気流の渦をうまくとらえた鳥は、10～20%ほどエネルギーを節約できます。V字型飛行では先頭の鳥が最も過酷な役割りを果たしますが、アメリカの研究によると先頭は交代で入れ替わります。こうすることで、互いが体力を消耗し尽くさないようにしているのです。



4500km!

カモの長距離横断ツアー

開発による干潟の埋め立てが世界各地で進む今、長旅を続ける渡り鳥にとって江戸川区の干潟は貴重なオアシスのひとつ。図は渡り鳥のカモのルートを追跡したものです。冬を関東で過ごし、3月に北へ出発したカモの仲間は、翌年7月中旬にはロシア沿岸部に到着。そして、ロシアで短い夏の間の子育てを終えると、9月下旬には再び南へと秋の渡りを始めます。



2011年カモの飛行ルート



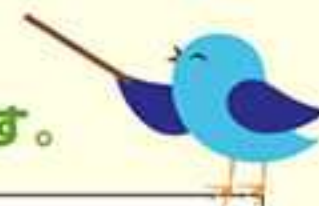
渡り鳥たちの サンクチュアリ江戸川区

江戸川区でみられる野鳥の多くは大陸間を移動する渡り鳥です。

はるか3000～4000kmの空の旅をしてきた渡り鳥が目指すのは、食べ物が豊富で安心して休める場所。

海岸、河川敷、多くの木が植えられた公園や街路が整備された江戸川区は、鳥たちが羽を休めるのに格好の場所なのです。

江戸川区を訪れる代表的な渡り鳥のパターンは、「夏鳥」「冬鳥」「旅鳥」の3つに分けられます。



夏鳥

日本で繁殖し、冬は南に下り越冬します。春～夏にみられます。



冬鳥

北の国で繁殖し、冬日本で越冬します。秋～冬にみられます。



旅鳥

北の繁殖地と南の越冬地を往復する途中、日本に立ち寄ります。春と秋にみられます。



※スズメやシジュウカラ、ハシブトガラスなどは、渡り鳥ではなく、一年を通して身近で見ることができる野鳥です。